

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 アトピー性皮膚炎に対するデュピルマブの長期投与例に対する有効性及び安全性の検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 皮膚科 職位・氏名 准教授・福田英嗣

【研究の目的】

東邦大学医療センター大橋病院皮膚科では、アトピー性皮膚炎に対するデュピルマブによる長期投与例の有効性及び安全性の検討を行うことを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、本薬剤の有効性・安全性を評価でき適正使用につながります。

【研究対象および方法】

この研究は、(東邦大学医療センター大橋病院)倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者:2018年9月～2021年6月までに東邦大学医療センター大橋病院 皮膚科において、アトピー性皮膚炎の診断でデュピルマブによる治療を開始された成人の方(約100名)

方法:診療録から抽出したデュピルマブ投与開始時、1か月後、2か月後、4か月後、1年後、1年6か月後、2年後における皮膚症状の重症度であるIGA、EASIと血液中のアトピー性皮膚炎の病気の勢いを示す指標(IgE、末梢血好酸球数、血清LDH、血清TARC)の推移、1年後、2年後における特異的IgE(Viewアレルギー39)の推移、副作用が出たかのデータを解析し、デュピルマブを1年以上投与した場合の有効性と安全性を検討致します。

用語解説:

IGA、EASI:アトピー性皮膚炎の評価指標の1つで、体全体の他覚的なアトピー性皮膚炎の重症度を表します。

IgE:アレルギーの原因物質(アレルゲン)に対して身体を守る機能を持つタンパク質である免疫グロブリンの一種です。アレルギー体質の場合は血液中に大量のIgE抗体が存在するといわれています。

好酸球:白血球の一種です。アトピー性皮膚炎などのアレルギー、喘息、寄生虫感染に対する身体応答で重要な役割を果たしています。

LDH:糖をエネルギーに変換する際に必要な酵素で、肝臓や皮膚の細胞の中に存在します。皮膚の症状が炎症により悪化し、細胞が壊されると、この値が上昇し、アトピー性皮膚炎の炎症の活動性の指標のひとつになっています。

TARC:アトピー性皮膚炎において重症度を反映して変動することが示唆されており、皮膚の病変の程度と重症度を知る指標として、また、治療効果判定の指標として用いられています。

特異的IgE:特定の原因物質(アレルゲン)に対してのみ反応するIgEのことで、原因物質に対応した「アレルギー体質」かどうかわかります。

【研究に用いられる試料・情報】

情報：病歴、診療の治療歴、副作用の発生状況、血液検査データ等

【研究組織】

代表施設名：東邦大学医療センター大橋病院 研究代表医師：福田英嗣 役職：准教授

【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 皮膚科

職位・氏名 准教授・福田英嗣

電話 03-3468-1251 内線 2012